

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-151343

(43)公開日 平成5年(1993)6月18日

(51)Int.Cl. ⁵ G 0 6 F 15/62 15/22	識別記号 4 5 5	庁内整理番号 9071-5L 7218-5L	F I	技術表示箇所
--	---------------	------------------------------	-----	--------

審査請求 未請求 請求項の数1(全 7 頁)

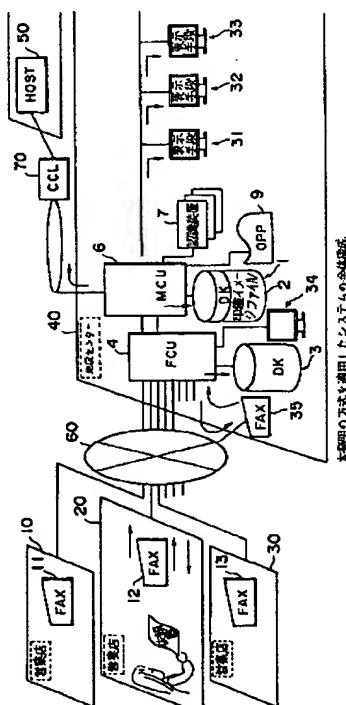
(21)出願番号 特願平3-336333	(71)出願人 000000295 沖電気工業株式会社 東京都港区虎ノ門1丁目7番12号
(22)出願日 平成3年(1991)11月26日	(72)発明者 佐藤 治 東京都港区虎ノ門1丁目7番12号 沖電気 工業株式会社内
	(74)代理人 弁理士 佐藤 幸男

(54)【発明の名称】 帳票処理時の印鑑照会方法

(57)【要約】

【目的】 検印のチェック作業を円滑にし、オペレータの負荷を軽減する。

【構成】 各営業店10、20、30における取引に使用される印鑑のイメージデータを格納した印鑑イメージファイル2と、当該印鑑イメージを表示する表示手段31、32、33とを用意する。そして、いずれかの営業店から送られた帳票上の印鑑イメージ及び識別符号を読み取り、当該識別符号に対応した印鑑のイメージデータを印鑑イメージファイル2から取り出し、当該イメージを帳票上の印鑑イメージとともに表示手段31、32、33に表示する。オペレータは、表示手段31、32、33に表示された2つの印鑑イメージを照合することにより、印鑑照会を行なう。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 各営業店における取引に使用される印鑑のイメージデータを格納した印鑑イメージファイルと、当該印鑑イメージを表示する表示手段とを用意し、いずれかの営業店から送られた帳票上の印鑑イメージ及び識別符号を読み取り、当該識別符号に対応した印鑑のイメージデータを前記印鑑イメージファイルから取り出し、当該イメージを帳票上の印鑑イメージとともに前記表示手段に表示することを特徴とする帳票処理時の印鑑照会方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、FAX-OCRシステムにおける帳票処理時の印鑑照会方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 FAX-OCRシステムとは、ファクシミリで帳票を送り、受信側でイメージデータから帳票上に書かれた文字の認識を行なうシステムをいう。このシステムは、例えば、銀行等の金融機関における為替業務を処理するシステムとして用いられる。図2は、従来のFAX-OCRシステムの全体構成図である。図示のシステムは、営業店10、20、30と、地区センタ40とから成る。

【0003】 営業店10、20、30は、銀行の各支店等であり、それぞれファクシミリ11、12、13を備えている。地区センタ40は、各営業店10、20、30と公衆回線60を介して接続されており、各ファクシミリ11、12、13からデータを受信する。この地区センタ40には、ファクシミリコントロールユニット14と、メッセージコントロールユニット16等が設置されている。メッセージコントロールユニット16は、通信制御装置70を介してホストコンピュータ50と接続されている。

【0004】 このようなシステムにおいては、営業店10、20、30から手書き帳票をファクシミリ11、12、13で地区センタ40に送信する。地区センタ40では、ファクシミリコントロールユニット14によって帳票イメージを受信する。すると、メッセージコントロールユニット16に接続された認識装置17により文字認識を行ない、文字コードに変換する。地区センタ40のオペレータは、ワークステーション31、32、33の画面上で文字コードの修正・検証を行なう。そして、ホストコンピュータ50にデータを送信する。

【0005】 このようなFAX-OCRシステムにおいて、営業店からファクシミリで送信される帳票には、その営業店で使用している検印が押されており、このイメージもワークステーション31、32、33の画面上に表示される。オペレータは、ワークステーション31、

32、33に表示された検印のイメージデータを目視することにより、この検印が帳票を送信した営業店のものかどうかをチェックする。しかし、従来のFAX-OCRシステムでは、印鑑照会機能がないため、検印チェックは、オペレータの判断により行なわれていた。つまり、各営業店で使用している検印の種類をオペレータが予め覚えておいてチェックするか、又は各営業店で使用している検印を記載した検印簿と見比べてチェックする方法が採られていた。ところが、実際には、処理能力の10関係上、前者の方法を探る場合が多かった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上述した従来の技術には、次のような問題があった。即ち、オペレータが予め検印を覚えておく方法では、人間の記憶により検印のチェックを行なうものであるため、セキュリティ上の問題があった。

【0007】 また、検印簿と照らし合わせる方法では、ワークステーションの画面に表示された店番より、その営業店で使用している検印を検索しなければならず、20オペレータの手間がかかる上、業務の処理能力上の問題がある。本発明は、以上の点に着目してなされたもので、印鑑照会機能を持たせることにより、セキュリティに優れ、また検印のチェック作業が円滑に行なえ、オペレータの負荷を軽減させるFAX-OCRシステムを実現できる帳票処理時の印鑑照会方法を提供することを目的とするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明の帳票処理時の印鑑照会方法は、各営業店における取引に使用される印鑑のイメージデータを格納した印鑑イメージファイルと、当該印鑑イメージを表示する表示手段とを用意し、いずれかの営業店から送られた帳票上の印鑑イメージ及び識別符号を読み取り、当該識別符号に対応した印鑑のイメージデータを前記印鑑イメージファイルから取り出し、当該イメージを帳票上の印鑑イメージとともに前記表示手段に表示することを特徴とするものである。

【0009】

【作用】 本発明の帳票処理時の印鑑照会方法においては、各営業店における取引に使用される印鑑のイメージ40データを格納した印鑑イメージファイルと、当該印鑑イメージを表示する表示手段とを用意する。そして、いずれかの営業店から送られた帳票上の印鑑イメージ及び識別符号を読み取り、当該識別符号に対応した印鑑のイメージデータを前記印鑑イメージファイルから取り出し、当該イメージを帳票上の印鑑イメージとともに前記表示手段に表示する。オペレータは、表示手段に表示された2つの印鑑イメージを照合することにより、印鑑照会を行なう。

【0010】

【実施例】 以下、本発明の実施例を図面を参照して詳細

に説明する。図1は、本発明の方法を適用したシステムの全体構成図である。図示のシステムは、営業店10、20、30と、地区センタ40とから成る。営業店10、20、30は、銀行の各支店等であり、それぞれファクシミリ11、12、13を備えている。

【0011】地区センタ40は、各営業店10、20、30と公衆回線60を介して接続されており、各ファクシミリ11、12、13からデータを受信する。この地区センタ40には、ファクシミリコントロールユニット4と、メッセージコントロールユニット6等が設置されている。ファクシミリコントロールユニット4は、メッセージコントロールユニット6に接続されている。このファクシミリコントロールユニット4には、磁気ディスク3が接続されている。磁気ディスク3は、ファクシミリ送信され、ファクシミリコントロールユニット4で受信された帳票上の各座標の画素データから成るイメージデータを格納する。

【0012】メッセージコントロールユニット6は、通信制御装置70を介してホストコンピュータ50と接続されている。このメッセージコントロールユニット6は、ファクシミリコントロールユニット4から認識装置7へのイメージデータの転送や、磁気ディスク1からホストコンピュータ50への処理データの送信等を制御する。また、この磁気ディスク1には、印鑑イメージファイル2が格納されている。印鑑イメージファイル2は、各営業店における印鑑のイメージデータを営業店毎に格納している。

【0013】また、このメッセージコントロールユニット6は、イメージデータから帳票上の所定位置にある装置識別符号を読み取る。そして、当該装置識別符号に対応した印鑑イメージデータを印鑑イメージファイル2から読み出す。

【0014】即ち、FAX-OCRシステムでは、どの営業店から帳票が送信してきたかを製造識別符号(ファックスID)により識別する。ファックスIDとは、ファクシミリ11、12、13に対して一意に設定されるIDであり、ファクシミリ送信データに付加される。認識装置7は、磁気ディスク5から読み出した帳票イメージ上の各文字の認識処理を行なう。メッセージコントロールユニット6には、その他、プリンタ装置9等が接続されている。

【0015】プリンタ装置9は、文字認識結果等を印刷出力する際に用いられる。また、メッセージコントロールユニット6には、ワークステーション31、32、33が接続されている。これらは、ディスプレイ及びキーボードやパーソナルコンピュータ等から成る。これらのワークステーション31、32、33のディスプレイに印鑑イメージが表示される。一方、ファクシミリコントロールユニット4にも、ワークステーション34が接続されている。これは、ファクシミリ受信されたイメージ

を表示したりするためのものである。

【0016】図3は、本発明の方法による処理手順を説明するフローチャートであり、図4は、本発明に係る装置の詳細な構成を示すブロック図である。また、図5は、印鑑照会画面の表示例を示す図である。ワークステーションの表示手段には、既に検証画面が表示されているものとする。検証画面の一例として、図5のような画面が表示されており、画面上には、帳票を送信した営業店の検印のイメージも表示されている。検証画面の表示中、ワークステーションのキー押下待ち状態となっており、オペレータの操作待ちである(図3のステップS11、S12)。

【0017】オペレータは、表示されている検印が本当にその営業店で使用されているものかをチェックするために、図4に示すワークステーションのキーボード22上に配置されている印鑑照会キーを押下する(ステップS13)。キーボード22上のキーが押下されると、電気的信号がキー検知回路25に入力され、押下されたキーを識別する。この場合は、印鑑照会キーが押下されたと識別する。押下されたキーが印鑑照会キーならば、WS制御回路26が現在、CRT21に図5に示す印鑑照会画面が表示されているかどうかを判断する(ステップS14)。印鑑照会画面が表示されれば、印鑑照会キーの押下が無効であると判断して再度キー押下待ち状態に戻る(ステップS12)。

【0018】印鑑照会画面が表示されていなければ、キーの押下を有効として、次の手順で検証画面上に印鑑照会画面を表示する(ステップS15、S16)。まず、WS制御回路26が現在表示している検証画面は、どの営業店から送られてきた帳票かを判断する。この場合は、店番100の営業店から送られてきている。次に、MCU通信回路27を通して該当店番で使用している検印を検出するようMCU60へ依頼する。MCU60では、WS通信回路61を通して依頼を受けると、MCU制御回路63がファイル管理回路64に対して印鑑管理ファイル65と印鑑イメージファイル2より該当店番の印鑑イメージデータを抽出するよう依頼する。

【0019】印鑑管理ファイル65には、店番と使用印鑑の対応付けやイメージデータの格納アドレス等の管理情報が登録されている。また、印鑑イメージファイル2には、実際のイメージデータが予め登録されている。該当店番の検印が検知できたら、印鑑データをワークステーションへ送信する。ワークステーションでは、MCU通信回路27を通して印鑑データを受信すると、WS制御回路26がCRT制御回路24に対してCRT21に印鑑データを表示するよう依頼する。CRT制御回路24は、画像メモリ23に印鑑データを展開し、CRT21に表示する。

【0020】印鑑照会画面の一例として図5のような画面が表示される。オペレータは、この印鑑照会画面と検

証画面上の検印とを目視照合することにより検印のチェックを行なう。この場合は、検印Bが店番100の営業店で使用しているものであるということが確認できる。

【0021】ステップS13で押下されたキーが印鑑消去キーならば、WS制御回路26は、現在CRT21に印鑑照会画面が表示されているかどうかを判断する。印鑑照会画面が表示されていなければ、印鑑消去キーの押下を無効とし、再度ステップS12のキー押下待ち状態に戻る。印鑑照会画面が表示されていれば、キーの押下を有効として次の手順で検証画面上から印鑑照会画面を消去する（ステップS18）。このような操作は、オペレータが検印のチェックを終了したときに行なう。WS制御回路26は、キー検知回路25より印鑑消去キーが押下された旨の通知を受けると、CRT制御回路24に対して印鑑照会画面を消去するよう依頼する。

【0022】CRT制御回路24は、画像メモリ23上より、印鑑データを除き、CRT21より印鑑照会画面を消去する。この場合の例では、図5の右側の状態から図5の左側の状態へ移り変わる。

【0023】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の帳票処理

時の印鑑照会方法によれば、FAX-OCRシステムに印鑑照会機能を搭載するようにしたので、センタ側で営業店の検印チェックを円滑に行なうことができる。このため、センタにおけるオペレータの負担を軽減でき、為替業務等の業務の運用上の処理能力の向上を図ることができる。また、検印チェックの精度を向上させることができ、安全面においても優れたFAX-OCRシステムを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

10 【図1】本発明の方法を適用したシステムの全体構成図である。

【図2】従来のFAX-OCRシステムの全体構成図である。

【図3】本発明の方法による処理手順の説明図である。

【図4】本発明に係る装置の詳細な構成図である。

【図5】印鑑照会画面の表示例を示す図である。

【符号の説明】

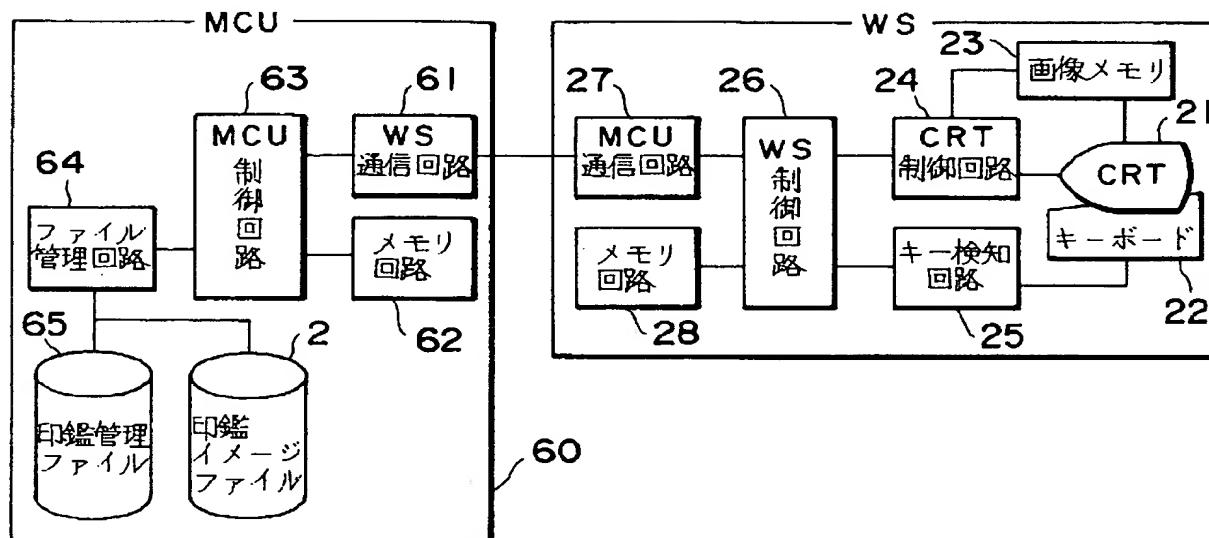
1、3 磁気ディスク

2 印鑑イメージファイル

20 7 認識装置

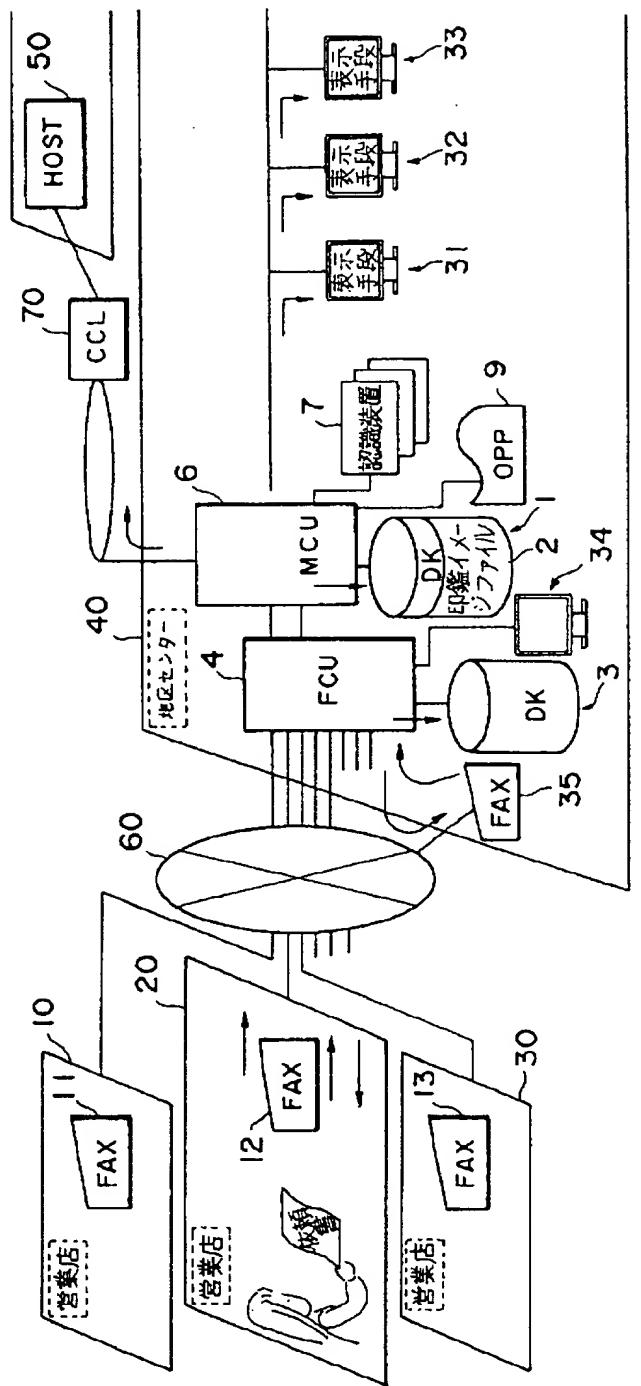
31、32、33 表示手段

【図4】



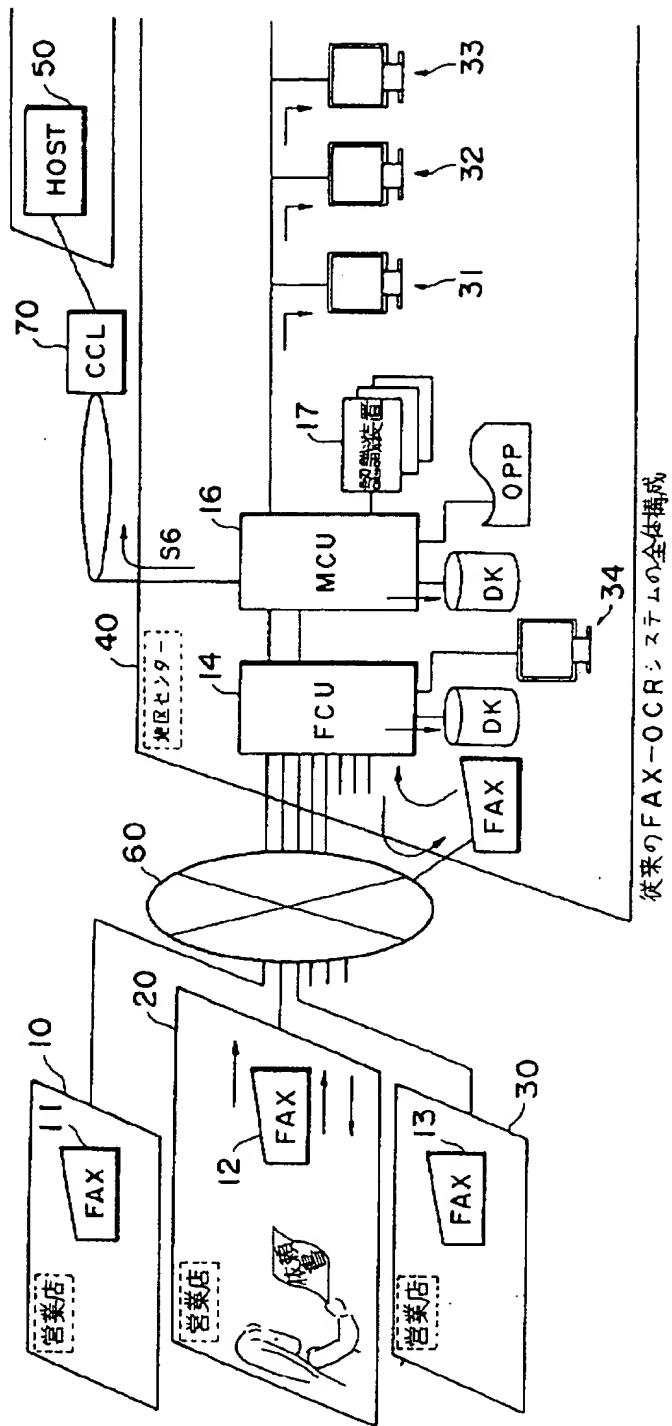
本発明に係る装置の詳細な構成

【図1】

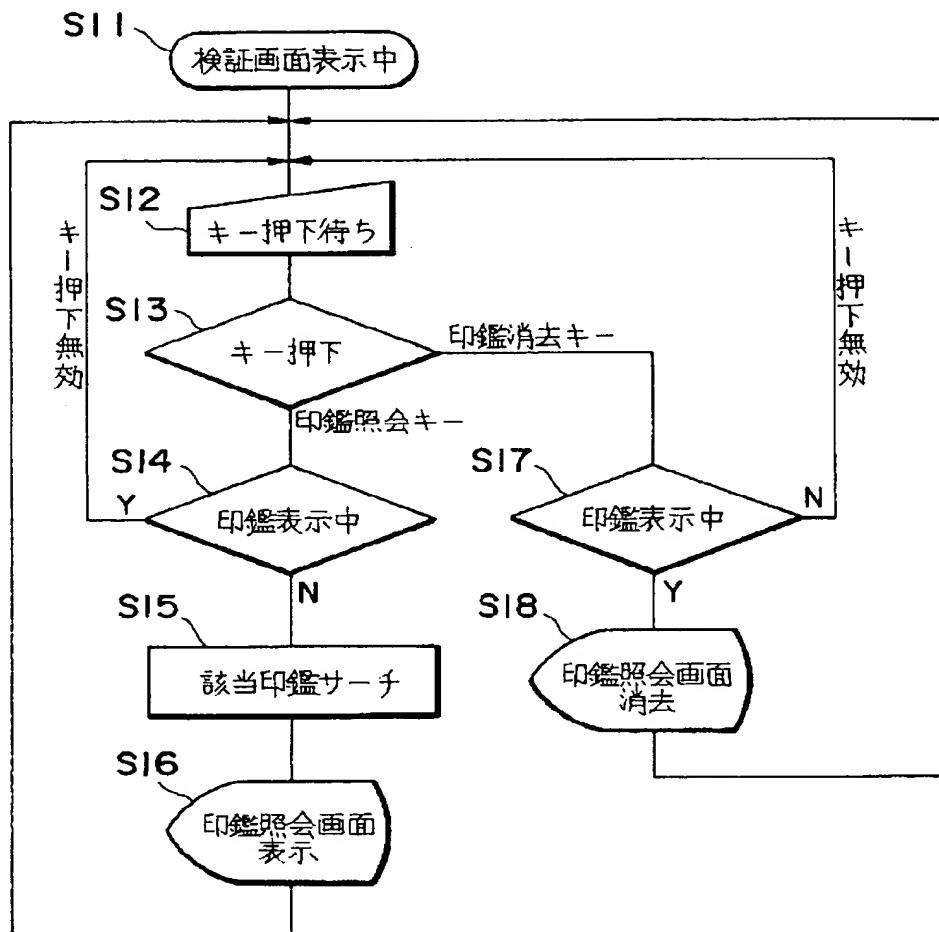


太線の方式を適用したシステムの全体構成

【图2】

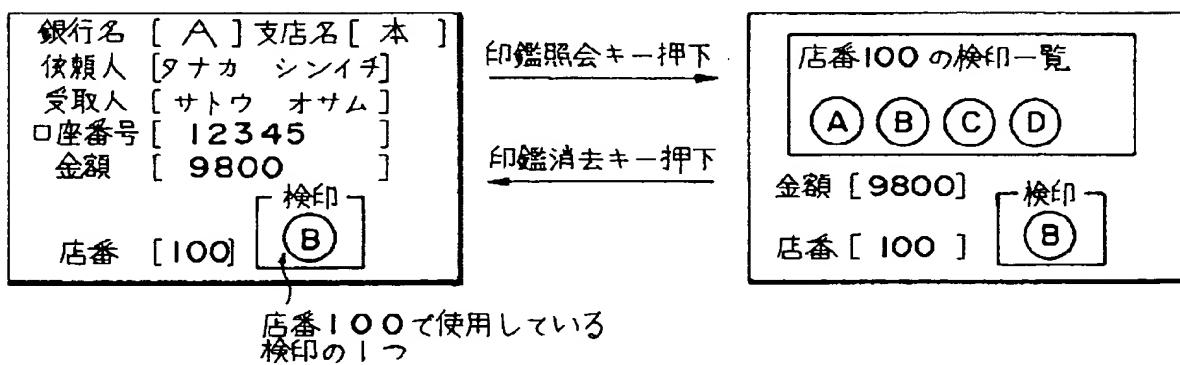


【図3】



本発明の方法による処理手順

【図5】



印鑑照会画面の表示例